

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	29
学校名	富山県立高岡南高等学校

学校の現状と課題	本校の教育目標「将来の夢を描き、大きな志をもって意欲的に学び、活動し、より高きを求めて挑戦する生徒」を元に、探究教育とキャリア教育を融合した、『SOUTH探究プロジェクト』を実施している。3年間を通じて、探究力と自己発力を育成するのみならず、自分の将来について見通しを立て、さらには社会の問題について、グローバルな視点を持って物事を捉えることができる生徒を育てることを目標としている。そこで本校では、目標を持って自分の将来について見定められる生徒を育成していくため、1学年より地域・大学と連携した探究的な活動を展開することにより、早くから自分の将来について考える機会を持ち、目標とする職業に役に立つ学問を学ぶことの意義を考えさせるよう企画している。また、将来を見据え探究の手法(リテラシー)を身につけることも企画している。
テーマ(特色)	SOUTH探究プロジェクト(地域・大学・企業と連携し、グローバルな人材を育成する)
設定した「テーマ」の達成状況	【1学年】(総合的な探究の時間等にて実施) ○イノベータープログラム(アントレプレナーシップ講座)で挑戦心を涵養したり、グローバルな視点で物事を捉えさせたりしメインでセットを行った。 ○地元自治体・企業の協力を得て、探究的な活動において地域と連携しながら探究の手法を学ぶことができた。8/25(金)に企業訪問を実施し、9月に内容を他と共有することで、特に問いの立て方、情報収集力、まとめて発表する力を育成した。11/14に地域探究講演会、1月～2月に地域探究連携講座・探究リテラシー講座を開設し、探究リテラシーを身につけると共に、将来志をもって地域で意欲的に学び活動する態度を身に付けさせることができた。3/19(火)には、自治体・大学・企業・PTA・同窓会関係者を招いて地域探究発表会を実施した。「探究的な活動Ⅰ」【2学年】(総合的な探究の時間・理数探究・ホームルーム等にて実施) ○各自の進路希望の関連分野毎にグループに分かれ、担当大学教授の指導の下、今後の研究方向について指導・助言をいただきながら方針を立てた。その後「大学連携講座」として研修を重ねながら、8月の報告会1までにテーマを設定させ、11月の報告会2(中間報告)でさらに深く考察すべき事項等についてアドバイスを受け、2月の最終報告会に臨ませる。そしてその講評や自己評価を実施し、探究力や自己発力を高めることができた。一部のグループでは地域企業等と連携し、先進的な指導を受けたり、訪問し活動をしたりするした。3月19日(火)にまとめて全体発表会を実施予定である。12月にはキャリア探究講座でPTAと連携し講師を幹旋、多様性をテーマに広範な分野から講師を集め講演会を実施した。結果として、自らの進路について主体的にまた客観的にも深く考えさせる中で、真のウェルビーイングを考えさせるとともに、地域のニーズに応え未来を切り開く実践力・高い知性と教養を持った生徒育成ができた。
実施内容(具体的に記入する)	【探究的な活動Ⅰ】(1学年)【実施計画①】 企業・地域と連携し探究的な活動の目的や基本的な手法などの講演を聴き、簡単な課題解決に取り組むことにより、今後取り組む課題研究の基礎を身に付ける。3月19日にまとめの発表会を実施した。(自治体・大学・経済団体・企業・同窓会・PTAなどから質問や助言を得た。) 【大学連携講座Ⅱ】(2学年) (1)生徒の進路希望をふまえ、富山大学の8系統の講師に研究分野をもとに、2学年の生徒150名を1系統約20名前後で希望進路に従って、指導や方向性のアドバイスをもらいながら活動させる。各系統内では、それぞれ3～6名のグループで活動した。 文系 A. 文学・言語系 B. 国際系 C. 経済系 D. 地域探究系(総合的な探究の時間) 理系 E. 数学系 F. 物理系 G. 化学系 H. 生物系(理数探究) (2)5月30日(火)(場所:富山大学)【実施計画①】 2学年生徒が、生徒が各系統ごとに研究室を訪問し、自分たちの探究的な活動について、テーマ・仮説・検証方法案などを説明し、富山大学の先生にアドバイスをいただいた。(アカデミック・インターンシップに位置づけている。) (3)8月23日(火)【実施計画②】報告会1:(場所:高岡南高校)富山大学教授等に協力を得て、各系統・グループごとに、生徒の探究的な活動についての指導助言をいただいた。(研究テーマの設定) (4)11月7日(火)【実施計画③】報告会2(場所:高岡南高校)教授等に来校頂、各系統・グループごとに、生徒の探究的な活動についての指導助言をいただいた。中間発表にて研究を説明し、テーマ・仮説・検証方法案などが適切であるか、また発表の技法についても富山大学の先生にアドバイスをいただいた。優秀な発表を2/3富山探究フォーラムにて発表を行った。 (5)2月6日(火)【実施計画④】最終報告会(場所:高岡南高校) 各系統ごとに探究的な活動のまとめの発表を行った。富山大学の先生方に、担当される系統の発表に対して指導・助言をいただいた。また全体発表会で発表するグループを選出した。 ・3月19日(火)代表グループによる発表:この発表会は1年生も参加し、来年度の活動の参考に。富山大学教授等10名に来校頂き、講評を頂いた。又保護者や地域・企業・自治体・県内中学校・県内高校にも公開した。(本事業外) (6)大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ【実施計画⑥】全体発表会までの間に、探究内容を深めるために、企業等より講師を招聘し助言を得た。期間6月～3月の間で4回実施した。(12/5・19/16/3/19(2h)実施) 【キャリア探究講座】(2学年)【実施計画⑤】多様な職業人の方との出会いを通して、仕事の話だけでなく専門に関係した社会の状況の解説をして頂く中で、自らの在り方・生き方について深く考えさせ、将来のキャリアをデザインすることの礎とする。9名の講師を招聘し、内5名を本事業で実施。
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	SOUTH探究プロジェクトを通じて、探究力・自己発力が育成された生徒の割合 生徒のアンケートより(1学年)94%(2学年)92%、進路を考える上で参考になった生徒の割合 生徒のアンケートより(1学年)99%(2学年)85% 大学の先生からの指導は、テーマ決定から発表までの活動で参考になりましたか。参考になった(2学年)96% キャリア探究講演会(2学年) 進路を考える上で役立った。96% 自分のキャリアに対する考え方はどの様になりましたか?・自己のことだけに目を向けてこなかったのが、社会形成を仕事につなげるという考えから自身の夢を見直すきっかけにもなり、また日常生活で様々なことに目を向けることの意義とその結果を知ることができた。・挑戦することとても大切だと思った。関係のないことでもそれが生かされる時があると思うので私もたくさんを経験し、人とのつながりを大切にしたい。・就活で聞かれるのは大学で得た知識ではなく、自分がどう成長したかということ現時点で具体的な進路を決めていなくても自分の強みを生かした働きを多方面の分野でできるということを講師の方と講師の方ともに働いている方の事例をもとに知ることができ、自分の考えが大きく変わりました。・「得と損ならば損の道を行くこと」興味のないことにも進んで触れようとしてみる」という言葉が最も印象に残っています。・人生100年時代を生きていくためには、自分から動くことや最後まで考え抜くことが大切だと学んだので、これから過ごしていく中で、そのことを大事にしながらか過ごしていきたいと思った。・好きなことはことごとくやってみてほしい。というお話があり、役に立つとか現実的とかだけでなく興味のあること、好きなことという基準で道をえらぶのは大切だと分かりました。 ・以上からプロジェクトの目的を果している。また探究教育を通し探究リテラシーを身につけるとともに、3つの柱である地域課題解決型、アカデミック探究型・アントレプレナーシップ教育型を実施できている。
対象者(学年・人数など)	1学年160名、第2学年158名
実施実績	4月 5月 ①30日(火)大学連携講座Ⅱ(2学年)富山大学研究室訪問…富山大学教授等8名の研究室を訪問し、指導と助言をいただく。 6月 ⑤大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ(2学年) 時期は2月まで3回程度(企業専門家・大学講師による指導) 7月 8月 ②23日(水):大学連携講座Ⅱ(2学年)報告会1…富山大学教授等8名より指導と助言をいただく。(テーマ設定) 9月 10月 11月 ③7日(火)大学連携講座Ⅱ(2学年)報告会2…富山大学教授等8名が来校し、指導と助言をいただく。 12月 ⑤5日(火)・19日(火)大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ(2学年)(企業専門家による指導) ⑥18日(月)キャリア探究講座(2学年) 企業専門家・大学から講師を招き実施する。9講座実施(内5講座本事業) 1月 ⑤16(火)大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ(2学年)(企業専門家による指導) 2月 ④6日(火)大学連携講座Ⅱ(2学年)最終報告会…富山大学教授等8名が来校し、指導と助言をいただく。 ⑤2回実施、大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ(2学年)(企業専門家による指導) 3月 ⑦19日(火)探究的な活動Ⅰ発表会(1学年) ⑤19日(火)大学連携講座Ⅱ・探究的な活動Ⅱ 全体発表会(2学年)(企業専門家による指導)